

筑波大学アーカイブズだより

第 6 号

2022年11月30日 筑波大学アーカイブズ編集・発行

企画小展示会の開催

館長 中野目 徹

当館は、2011年に全面施行された公文書等の管理に関する法律（平21、法66）の定める「国立公文書館等」の1つに指定されています。同法はその第23条で「国立公文書館等」における所蔵資料の利用促進について規定し、具体的には「展示その他の方法」を挙げているところです。当館でも2017年の指定以来、展示会の開催が課題の1つとして意識されていましたが、展示スペースや展示ケースの問題が解決できず、毎夏のオープン・キャンパスの際に特別小展示会を開催するのがやっと、という状況でした（それもコロナ禍の影響で一昨年と昨年の2年間は開催できませんでした）。

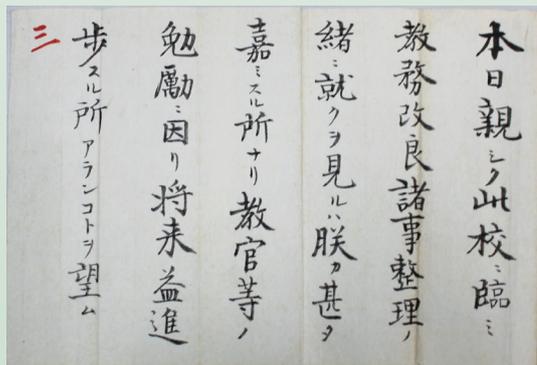
ところが、昨年度から今年度にかけて、附属図書館のご好意（不用物品の活用）と50周年記念事業関連予算の手当によって、それぞれ2台ずつ合計4台の展示ケースを入手することができました。残りの問題はスペースです。旧施設部事務棟を流用している当館では、大規模な改修工事をしないかぎり適当な展示スペースを確保することはできませんから、閲覧室の一部を展示会中の一時期だけ使用することにしました。もしかするとこれは、法の所管省庁である内閣府からお叱りを受ける可能性もありますが、専用の展示スペースを確保するまでの応急措置としてご理解をえるしかありません。

こうして、今年6月1日から17日までの17日間、第1回の企画小展示会「高等師範学校の設立」の開催に漕ぎつけました。初代文部大臣森有礼の強い意向もあって、高等師範学校が勅令をもって設立されたのは明治19年（1886）4月10日でした。この展示会では当館の所蔵資料のほか、50年史編纂室の収集資料から、歴史公文書の原本として人事関係文書、土地建物台帳等に加え、創立の翌5月18日の明治天皇行幸に関する簿冊等を展覧に供しました。行幸に関する簿冊には、当日の明治天皇による勅語（勅書）が編綴されていましたので、これも展示することにしました。東京文理科大学・東京高等師範学校編『創立七十年』（培風館）には口絵写真として掲げられていますが、その後は所在が確認されることなく、こういうかたちで原本を展示するのはおそらく初めてのことだと思われます。

事前の広報などが不十分だったこともあり、期間中計78名の見学者を数えただけでしたが、私たちは確かな手ごたえをえることができました。そこで、12月1日～21日に第2回の企画小展示会「東京文理科大学の時代」を開催することとなりました。このなかでは、東京高等師範学校の大学昇格運動の結果、昭和4年（1929）に創立され、ある意味では筑波大学の最も重要な母体となった東京文理科大学の歴史に関する資料を多数展示しております。多くの皆さまのご来館をお待ち申し上げます。



第1回小展示会風景



明治天皇の勅書

第2回企画小展示会「東京文理科大学の時代」 ご来館をお待ちしております。

文書移管の実際について

－アーカイブズで行われる選別作業－

筑波大学アーカイブズ専門職員 北村 照夫

2016年4月に設置された筑波大学アーカイブズは、2017年4月1日付けで国立公文書館等に指定され、大学法人文書の移管先として機能している。7年目を迎えた現在、1万点を超える特定歴史公文書が、書庫3室にて適正な温湿度管理の環境下で保存されている。ここでは、設置後暫くは認知度が低かったアーカイブズに、現在では多くの課室から文書を移管してもらえるようになった現状に触れつつ、文書移管の実際について記したい。

年度ごとの移管受入れ実績は、表1のとおりである。このうち、通常の保存期間満了の流れで受け入れた以外のものを差し引くと年を追うごとに移管元組織数が増加していることがわかる。立ち上げ当時は、アーカイブズの機能や使命について理解が十分でなく、移管に対して及び腰の組織があったことが推察できる。一般の職員にはアーカイブズにおける特定歴史公文書の利用実態が見えず、移管すると勝手に公開されてしまう心配があったようである。移管元組織に丁寧の説明して理解と協力を求めていく必要がある。

表1 移管文書受入れ実績（寄贈を除く）

| 年度 | 移管元組織数 (選別作業分) | 受入れ冊数 (通常の選別作業分) |
|------|-------------------|---------------------|
| 2017 | 14 (10) | 2,347冊 (372冊) |
| 2018 | 19 (18) | 439冊 (196冊) |
| 2019 | 19 (18) | 4,129冊 (432冊) |
| 2020 | 33 (30) | 1,123冊 (742冊) |
| 2021 | 41 (36) | 4,933冊 (670冊) |

次に移管協議について述べる。公文書管理法（「公文書等の管理に関する法律」）をもとに、筑波大学法人文書管理規程第16条では、「保存期間の満了前のできる限り早い時期に、保存期間が満了したときの措置を定めなければならない」として、移管するか廃棄するかの措置を定めることとしている。ところが、実際には、アーカイブズができて日が浅かったこともあり、「法人文書ファイル等の筑波大学アーカイブズへの移管等について」（平成28年11月29日 総括文書管理者・アーカイブズ館長両者の申合せ）により、経過措置として「レコードスケジュール（保存期間とそれが満了したときの措置に関する計画）が設定されるまでの当分の間は、各文書管理者と館長との協議により、移管する法人文書ファイル等を決定する」とされている。この申合せに従って、毎年、保存期間が満了した文書

ファイルリストの出力と、アーカイブズによる移管するにふさわしい文書ファイルの選別作業とが行われている。

では具体的に選別作業はどのように行われているのか。まず、各文書管理者から保存期間満了文書ファイル一覧が総括文書管理者（担当は総務部総務課総務係）に送られる。その後、総括文書管理者からアーカイブズ館長にファイル一覧が送られ、そのファイル一覧をもとにアーカイブズの教員2名（兼務）と事務職員2名（現在はシニアスタッフ）により、過去の実績も踏まえて1点1点の検討を行う。大中小の分類、標準ファイル名、ファイル名、公開ファイル名、保存期間満了時の措置（「アーカイブズへ移管」又は「廃棄」）、保存期間、文書数等の情報をもとに、アーカイブズに移管して将来的に大学の歴史資料とすべき価値があるかどうかを短時間で意見交換する。ファイル名に漠然とした名称が使用され、具体的な文書の内容を見極めることが難しいケースも少なくない。基本的には保存期間が10年以上の中から選別を行うが、3年や5年の文書でも歴史的価値を有するものもあり、それらを見逃さないように注意が必要である。また、毎年、文書を移管してもらうほどではないが、サンプルとして1年分だけを保存したいという判断をする場合がある。大学の教育、研究に関する施策決定は広範囲に及ぶため、全体を網羅的に保存することは無理でもその片鱗を記録として残すという趣旨である。このようにして、特に各組織の委員会などの会議資料、教員人事をめぐる記録、組織改編や新たな取り組みに関する審議経過、規則等の制定など、大学の歴史の足跡を確実に保存することが重要となる。

文書移管に係る作業は地道な仕事だが、「国及び独立行政法人等の有するその諸活動を現在及び将来の国民に説明する責務が全うされるようにする」（公文書管理法第1条）という公文書等の管理の目的にあるように、将来、大学内にとどまらず、広く国民に共有されるべき財産となることに時折思いをめぐらせながら日々取り組んでいるところである。



所蔵資料の紹介

島田俊平関係文書の紹介

助教 田中友香理



写真1 島田俊平の肖像写真
(筑波大学アーカイブズ受入予定
「東京高等師範学校大正12年度
入学生徒写真帖」)

島田俊平は、明治34年(1901)4月29日に千葉県で生まれ、千葉師範学校を出た後、大正13年(1924)に東京高等師範学校理科第二部(物理学)に入学して昭和4年に卒業、同年から同23年まで、20年にわたって京都府立盲学校(同6年までは京

都市立盲学校)の教員としてわが国の盲教育に大きな貢献をした人物である(写真1)。そのうち同20年から同23年までは同校校長を務め、翌年2月8日に亡くなった。なお、高師卒業が通常より2年遅いのは、在学中の不慮の事故のためである。また、本稿の性質上、物故者の敬称は省略させていただく。

筑波大学アーカイブズは、平成29(2017)年から令和4(2022)年にかけて島田俊平の御子息である嶋田俊恒氏から御遺品の寄贈を受け、同年に特定歴史公文書等45点、参考資料76点からなる島田俊平関係文書として公開をはじめた。参考資料76点は、『大言海』や『大思想エンサイクロペディア』、『太平記』といった島田とその家族が利用したと考えられる書籍を中心とするものである。特定歴史公文書等45点の内訳は、島田が記した受講ノート8点、高師卒業アルバム1点、家族アルバム1点、高師同期生の同窓会誌『昭二会誌』2点、東京文理科大学『創立六十年』(1931年、東京文理科大学)1点、中島綾編『昭和廿三年茗溪会客員会員名簿』(1948年、茗溪会)1点のほか、島田が千葉師範～高師在学中に利用したと推定される教科書・参考書等31点である。このうち、受講ノートは表装されたうえ、背に題名が記されており、たとえば、「ASTRONOMY AND METEOROLOGY」「ELECTRICITY AND MAGNETISM」「LIGHT」「HEAT」等である(写真2)。これらは東京高等師範学校規則(大正15年10月伺定)の第4章学科程度及課程に掲載されている理科第二部開設の授業科目「天文、気象」「電磁気学」「光学」「熱学」(『東京高等師範学校一覽』昭和2年)に対応しているため、高師在学時の講義筆記ノートとみることが

できるが、他の学生のノートと比較するなどして引き続き検討を加える必要があるだろう。

以上紹介した文書から構成される島田関係文書は個人文書としては、比較的小規模の文書群であることは否めないが、実は島田に関する文書の主たる部分は、京都府立盲学校の資料室に所蔵されている。同室所蔵の島田関係文書は、島田の日記、職員会議録、アルバム、書籍等から構成されており、同室担当教員の岸博実氏と坂本健次郎氏によって丁寧な整理が施されている。筆者は平成29年に嶋田氏から京都府立盲学校にも文書を寄贈していることを岸氏のお名前とともに伺っていたが、その後コロナ禍等の様々な事情によって調査にとりかかることができず、ようやく令和4年11月7日に同室を訪問し、第一回の調査を実現できた。

上記のようなわけで、当館所蔵の島田関係文書のみからでは、島田の業績や人となりを把握することは困難であったが、京都府立盲学校の島田関係文書を閲覧し、同校校長としての島田の姿をおぼろげながらも掴むことができた。詳細は来年度の『筑波大学アーカイブズ年報』で紹介したいと思っている。併せて、今年度新たに嶋田氏から寄贈された文書の紹介も行ないたい。

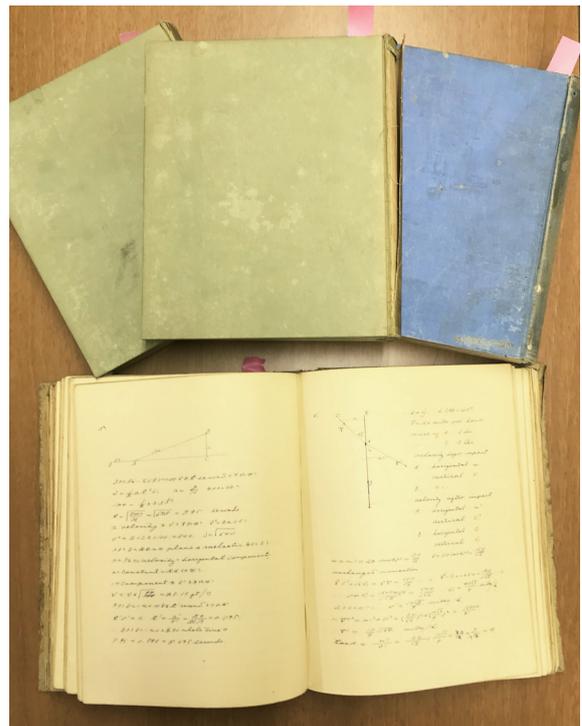


写真2 島田俊平の受講ノート(一部)

業務日誌 (抄) 2021年11月～2022年10月

2021

- 11.1 北原元学長より関係資料の寄贈を受ける(中野目館長・田中助教出張)。
- 11.15 第2回筑波大学50年史編纂委員会を開催。
- 11.30 「筑波大学アーカイブズだより」第5号を発行。
- 12.20 C書庫に書架を増設。
- 12.22 北原元学長より関係資料の寄贈を受ける(田中助教出張)。
- 12.13 第18回運営委員会を開催(～12.24、メール会議)。

2022

- 1.7 企画評価室ほか18組織から資料を受け入れる。
- 1.19 第3回筑波大学50年史編纂室員会議を開催(ハイブリッド)。
- 2.3 北原元学長より関係資料の寄贈を受ける(田中助教出張)。
平成3年度アーカイブズ研修Ⅱを河野主任受講(～2.4、オンライン)。
- 3.2 第4回筑波大学50年史編纂室員会議を開催(ハイブリッド)。
- 3.15 総務部総務課ほか2組織から資料を受け入れる。
- 3.17 広報室ほか18組織から資料を受け入れる。
- 3.30 第5回筑波大学50年史編纂室員会議を開催

- (ハイブリッド)。
- 4.25 第3回筑波大学50年史編纂委員会を開催。
- 5.18 第19回運営委員会を開催(オンライン)。
- 5.31 「筑波大学アーカイブズ年報」第5号を発行。
- 6.1 アーカイブズ第1回企画小展示「高等師範学校の設立」(～6.17)。
- 6.10 全国公文書館長会議に田中助教・河野出席(オンライン)。
- 6.27 第4回筑波大学50年史編纂委員会を開催。
- 7.7 学生部から前身校関係資料を受け入れる。
- 7.21 第6回筑波大学50年史編纂室員会議を開催(～8.31メール会議)。
- 8.6 大学のオープンキャンパスに際し小展示を実施。
- 8.22 令和4年度アーカイブズ研修Ⅰを北村専門職員受講(～8.26、オンライン)。
- 9.13 第7回筑波大学50年史編纂室員会議を開催(～9.30メール会議)。
人文学類から人文学類卒論を受け入れる。
- 9.26 第5回筑波大学50年史編纂委員会を開催。
- 10.24 第8回筑波大学50年史編纂室員会議を開催(～11.9メール会議)。

資料の受入れ 2021年11月～2022年10月

■特定歴史公文書等：移管資料

企画評価室、広報室、国際室、総務部総務課、総務部リスク・安全管理課、総務部組織・職員課、財務部財務企画課、財務部財務管理課、施設部施設企画課、教育推進部教育推進課、教育推進部教育機構支援課、教育推進部社会連携課、学生部学生生活課、学生部就職課、学生部学生交流課、研究推進部研究企画課、研究推進部外部資金課、産学連携部産学連携企画課、利益相反・輸出管理マネジメント室、学術情報部情報企画課、学術情報部アカデミックサポート課、学術情報部情報基盤課、病院総務部総務課、東京キャンパス事務部学校支援課、東京キャンパス事務部企画推進課、人文社会エリア支援室、社会人大学院等支援室、数理工物質エリア支援室、システム情報エリア支援室、生命環境エリア支援室、人間エリア支援室、体育芸術エリア支援室、医学医療エリア支援室、図書館情報エリア支援室、国際統合睡眠医科学

研究機構、人文学類

■特定歴史公文書等：寄贈資料

北原保雄

■参考資料

学内

広報室、教育推進部、生存ダイナミクス研究センター、プラズマ研究センター、研究基盤総合センター工作部門、附属図書館、日本近代史研究会

学外

国立公文書館、宮内庁書陵部、外務省外交史料館、北海道大学大学文書館、東北大学学術資源研究公開センター史料館、東京大学文書館、東海国立大学機構大学文書資料室、京都大学文書館、大阪大学アーカイブズ、神戸大学大学文書史料室、広島大学文書館、九州大学文書館、防衛省防衛研究所、国立国会図書館、国立国会図書館関西館、熊本大学文書館、北海道大学150年史編纂室、一橋大学創立150年史準備室、福島県歴史資料館、千葉県文書館、東京都公文書館、神奈川県立公文書館、

新潟県立文書館、富山県公文書館、福井県文書館、愛知県公文書館、三重県総合博物館、京都府立京都学・歴史館、和歌山県立文書館、鳥取県立公文書館、岡山県立記録資料館、広島県立文書館、山口県文書館、高知県立公文書館、福岡共同公文書館、沖縄県公文書館、札幌市公文書館、相模原市立公文書館、新潟市文書館、常陸大宮市文書館、藤沢市文書館、天草市立天草アーカイブズ、東海大学学園史資料センター、慶應義塾福澤研究センター、日本大学企画広報部広報課、法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ、明治大学史資料センター、関西大学年史編纂室、早稲田大学歴史館、青山学院史研究所、帝京大学総合博物館、南山アーカイブズ、茨城地方史研究会、新潟県歴史資料保存活用連絡協議会、富山県歴史資料保存利用機関連絡協議会、公益財団法人渋沢栄一記念財団、歴史人類学会(敬称略)

筑波大学アーカイブズ

〒305-8577

茨城県つくば市天王台1-1-1

電話：029-853-4127 (代表)

メール：univ-archives@un.tsukuba.ac.jp

H P：https://archives.tsukuba.ac.jp/

つくば駅からアーカイブズまでのアクセス

【バス】

「つくばセンター」から関東鉄道バス「筑波大学循環」に乗車後約10分、「第一エリア前」で下車、その後徒歩約2分

【お車】

駐車場もございますので、お車でございましたことできます(数に限りあり)。

